

令和6年度 第4回 市民活動支援センター運営委員会

	令和6年7月20日(土) 10時00分～12時00分							
会場	市民プラザあくろす2階 はばたき							
運営委員	会場	村上 むつ子	欠席	平澤 和哉	会場	横山 真理	会場	水田 征吾
	会場	毛利 勝	会場	小松 明日香	会場	原島 秀一	会場	石井 洋子
	欠席	阿部 秀樹	欠席	浜本 雅樹	会場	石正 房江	会場	安藤 雄太
	会場	佐竹 澄子	会場	吉田 真也	会場	松谷 知彦	欠席	田村 敦史
	会場	ニンファ・ジャヤマーンナ						
事務局	橋本、北島、成田							

1 えんがわ文庫と交流 10:00～10:15 (15m)

市民活動支援センター内、えんがわ文庫にて棚主と交流をした。

2 1分間近況報告(各委員) 10:15～10:45 (30m)

各委員より近況報告

3 【協議事項】 10:45～11:45 (60m)

えんがわフェスタへ向けてのグループ協議

【委員長】1月19日のえんがわフェスタ開催に向けて、3グループ、それぞれのテーマで協議を進めている。

- ① 本日のゴール目標として、これまでの各グループの内容を振り返りながら、それぞれのテーマをどうかたちにして、ひとつのイベントとして、各テーマの内容をどう発表するのか。全体の進行も大枠を決めたい。
- ② 演劇は、テーマごと、或いはイベントとして一貫したものとするか検討したい。
- ③ 9月より、えんがわフェスタ部として、各グループから数名、部会として活動する人員を選出したい。

※ここから各グループに分かれての協議を行った。

各グループの発表(全体共有)

【委員長】各グループで協議した内容を全体で共有したい。高齢者班から、発表をいただきたい。

【高齢者班】

【事務局】まずはコンセプトを決めることにした。

孤立・孤独に注目し、手法として演劇を用いることにした。高齢、50代、子どものそれぞれに、孤立・孤独がある。「家族とは何か」、「地域とは何か」、「市民活動とは何か」を問う劇としたい。

孤立・孤独の状況に、市民活動の役割や地域の繋がりといった横串を刺す内容の結論としたい。

一方的な情報発信だけでなく、途中途中で、参加者からも意見をもらい、双方向のコミュニケーションを図りたい。こちらから働きかけで、小さなことでも、行動を起こしてくれる方がると良い。

課題は、3グループの一体感をどうするか。会場を共有することだけなのか、共通のテーマ、孤立・孤独に関する内容を、どなたか講師に講演してもらい、対象に合わせたコンテンツを部会ごとに用意するイメージで協議を終了した。ほか補足はないか。

【委員】若い人たちは情報の取り扱いが一方通行、情報のなかの孤立の問題があるのではないかと考える。議論の場に来て、双方向のコミュニケーションで、違いを確認することも大切なこと。場合によっては、情報の取り方も含めると、3グループに加えて、もうひとつあるのかも知れない。

【委員長】子どもグループは食に関心があるが、高齢者グループでは、食に関する内容はなにかでているか。

【委員】どこかのタイミングで、討論する場面があるとよいと意見がある。そのなかで、孤食などの食に関する話題を入れることは考えられる。

【委員長】高齢者グループのテーマのターゲットは高齢者なのか。気になったのが、イベントに高齢者を呼べるかと、だれを対象の話になるのかのところ。

【委員】3グループの各テーマを用いると3つのコンセプトがでてくる。このため、グループごとにバラバラ感が否めない。共有テーマとして孤独・孤独の横串を通すことで、統一感をもたせて、個々の関心のあるテーマ以外にも、それぞれの気づきももてるとよい。

演劇のシナリオや、グループワークの持ち方、あくろす全館を使うので、3階ホールで演劇、2階で関連ブースなど、組合せを考えて開催できるとよい。

【子どもグループ】

【委員長】子どもグループは、軸となるコンセプトをどうするかを話し合った。結論までは達していない。ただ高度なテクニックの演劇で全部を伝えるのは、難しいと考える。

寸劇と解説の組み合わせを繰り返すスタイルで進行することで、伝えたいことに加えて、解説によって内容を補足し、「孤立」や「食」のポイントが伝えられるとグループ毎のバラバラ感も、うまくまとめることができるのではないかと考える。

グループとして、なにを伝えるかは決定していないが、食をテーマとするならば、孤食を取り入れることはできる。最終的に、各情報を持ち帰ってもらいたいし、情報をどこで得ることができるのか、次の一步を踏み出すときの情報提供しなければならない。もともと調理の話がでていたが、劇中での調理は難しいので、午前と午後の部として、午前に調理を実施して、食を学んで、実食もし、午後は、演劇を含めた企画として、そこにも参加し

てもらえるプログラムが考えられるとよい。そうなると、餅つきを組み合わせることができ、お祭り感もだせる。本日は、全体の流れの議論をした。

【50代グループ】

【委員長】 50代チームの共有をお願いしたい。

【委員】 3つのテーマを演劇で伝えるのは無理があるとの議論になった。柱として、食の大切さと人との関わりに大切さをベースにした上で、手法として演劇と3グループの分科会で、イベント全体の立てつけをしたいという議論となった。劇の内容は、3グループのそれぞれを組み合わせた内容にし、先ほど、解説をつけるという発表があったが、劇の最後に内容の種明かしをする時間をプラスして、各グループのテーマの気づきを持たせたあと、それぞれのグループの分科会に参加してもらい、次の一步を踏み出してもらえるような手法とした。補足をお願いしたい。

【委員】 演劇で3グループの各テーマをどう盛り込むか。個人のアイデアだが、三匹のこぶたの童話をパロディにし、一軒の家の居住者に焦点を当て、狼がこぶたを誘い出す際のように「子どもたちが作った調理品を持参する」など誰がどのように誘い出す役割をすとか、などというのもユーモアがある。

結末では、元気に活動する実行委員会のメンバーを紹介するのもよいのか。特定の年齢層だけでなく、シニア、50代、子どもたちにも演じてもらえると、演劇の出演者のご家族の集客にも繋がる。

【事務局】 演劇は運営委員が出演するのか。

【委員】 委員より有志の出演でもよい。また、仙川劇場のボランティアの裏方さん、近隣大学の演劇部に、コラボとして協力を求めてもよいのか。多世代のボランティアグループが出演するイメージも考えている。

【委員長】 しっかりした演劇で実施をイメージしているのか。寸劇と解説の繰り返しの組み合わせでもよいのか。

【委員】 どちらも可。目指すところは各グループの意見と同じ感覚である。

【委員長】 大まかに企画が見えてきた。一案だが、午前は調理、午後時間で、メイン的な演劇の枠として、各グループの分科会、または交流会への流れなども良いではないか。

【委員】 参加者のイメージは、各グループのターゲット層それぞれ募集するのか。イベント全体のコンセプトはひとつに絞らず、各世代の集客を目指す方向なのか。

【委員長】 各世代別で、それぞれの集客にチャレンジしたい。

【委員】 分科会では、子どもだけのグループを作ってもよいのではないか。

【委員長】 分科会時に、うまい組み合わせができるとよい。

【委員長】 全体としてのフレームワークみえてきたかと考える。全体共有としてどうか。本日までのところでなにか確認しておきたいことはないか。

※特に意義はなし

【委員長】最後に各グループから、えんがわフェスタ部会への人員を数名、選考いただきたい。定例実行委員会とは別時間に行う部会になる。フェスタに向けての進行、各グループとの調整といった内容が主な役割となる。本日は欠席もあるので、後日メンバーに追加変更の可能性もあるので、あらかじめ了承いただきたい。

※各グループから2～3名の人員を選出した。

●協議結果

- ・1月のフェスタ当日に向けて、えんがわフェスタ部会のメンバーを選出した。
- ・内容は、次回運営委員会においても継続して協議を行っていくこととした。

4 **【報告事項】 11:45～11:55 (10m)**

資料1

居場所探訪PJより報告

【事務局】 イベント当日は、実行委員会9名、登壇者6名、参加者69名、総参加者数84名であった。うち半数程度から、アンケートの回答があった。大変良かったが20件程、良かったも同数くらい、もう少し聞きたかったという回答が1件あった。「もう少し聞きたかった」のと回答は、市外よりお越しの方であった。

調布市内の基礎情報がない中でのご参加で、地域の居場所の地理的な情報、所在地の特徴といった背景など、もう少し前提条件などを聞けると嬉しかったとう内容であった。

東京ボランティアセンターへチラシの配架を依頼した効果か、市外・都外からの参加が複数名あった。

また、当日配布した冊子が好評であった。センターHP上でのイベント開催報告を検討している。当日の画像と一緒に掲載したいが、了承いただけるか。冊子掲載の団体についてもHP掲載の了承が必要かも確認したい。

【委員】 皆様のご協力もあり、盛況ですごく嬉しい。できれば、プロジェクトの継続をしたいと考えている。

5 **【その他】 11:55～12:10 (15m)**

情報共有

① チャリティウォークについて

【委員長】 10月26日の当日に向けて、イベント内容について話を進めている。国領駅前ひろばをスタートして、深大寺からさらに昨年同様になるが植物多様性センターまで行き、折り返してくる8kmコースに決定している。スタッフが足りていない状況がある。運営委員のなかでご参加いただける方には、是非ご協力いただきたい、またご協力いただけそうな方の紹介もお願いしたい。

②サマーボランティアについて

【事務局】参加数として現在191名となっている。複数の活動参加もするので、調整日数として400日分のプログラム調整をおこなっている。例年と比べても参加者が多い。個別ガイダンスで使用しているガイダンス動画とプログラムの内容の二次元コードを本日のレジメに添付している。実施の様子を次回の運営委員会で報告したい。

ガイダンス動画



プログラム



③えんがわ文庫棚主募集について

【委員】ひとりひとりの棚主募集をしている。活発な活動と交流を目的としている。空き棚ができると棚主募集し新規棚主への説明会をおこなっている。ご興味がある方がいれば参加ください。また興味がある方を紹介いただきたい。

【事務局】先日、出演した調布FMの生涯学習・市民活動のススメの音源を委員にも配布をしたいと考える。後日メールにて送付したい。

④えんがわだより1面について

【事務局】居場所探訪のイベント報告の実施についての記事になる。本日までに原稿案を用意したが、間に合っていない。後日に伝えたい。

⑤その他

【委員長】各委員からのお知らせ、共有事項等はないか。

【委員】お手元のチラシ資料になる。先日も先行してメールでも案内しているが、セルフ・コンパッションを用いたプログラムの効果のメンタルヘルスプログラムのモニターを募集している。金曜日夜間帯4日間のプログラム参加が必須条件となる。協力いただける方や、周知・広報の是非お願いしたい。

【委員長】実行委員の夏合宿の参加者の確認をしたい。日程の第一候補は8月24・25日の土日、もしくは31・9月1日で参加確認をしたい。場所は山梨の上野原市になる。農業体験などが可能で温泉もある場所となる。このタイミング参加が可能な方の挙手で人数を確認したい。

※挙手にて各日程の参加人数の確認をした。

6 今後の市民活動支援センター運営委員会の開催日時と議案について

9月12日(木) 18時30分～20時30分 第5回運営委員会

【委員長】では、本日の運営委員会を終了する。